

記 録 (追憶)

如

大 學

(一) 葉子専門部では当時幸にも、二学年生は熊本県水俣、山口県の小野田その他の工場に勤労奉仕で出て居り三年生は学内で防空壕を掘つていた (古屋野宏平記)

昭和二十年八月九日

調 来 助 記

(二) 昨夜は防空直で病室に泊つたが幸いに何事もなく無事にすんだ。ホットしたさわやかな氣持で六時起床、六時半に同じ直の内藤(達)教授、梅田教授、医専木戸教授、葉子、杉浦教授達と調理所の二階で朝食をとる

雑談の暇もなく、七時には空襲警報が発令された。直ちに当直学生を本館前に集め、欠席の高瀬教授に代り簡単な点呼を行つて、各自部屋につく。敵機の音は聞えない。九時に空襲警報が解除され、引き続き敵警戒警報に入つた。ゲートルのまゝ、第二中講堂で医専三年の講義をすまし、帰りに中講堂の前を通つたり、角尾学長は十時を過ぎたのに未だ熱心に講義の最中であつた。

中間報告

昭和31年6月20日

県の調査について唯今迄の経過と今後の計画を左記の通り報告します。変更すべき点の有りますれば変更しないと思ひますので御氣付の点御指示致します。

記

唯今迄医学部の書類、田中正之氏所有の書類及「追憶」等を調査し、县市を始め中島盛一課長、田中正之係長、鬼塚正之先生、友成栄次氏、深江誠助子宅、鶴鳴、市立、純心、玉木の四高女、佐藤又一、長井五郎西係長、平山満喜女史等の調査等の結果或報告が出来るまゝのむ

第一、唯今、別紙「照会事項」の見出しの通り十二項目に対し調査授に照会中

第二、名簿について、原爆発時等の書類、田中正之氏所有の書目類及「追憶」等を参考作成しました可成り相違したところも有りますので、各科の死亡者生存者名簿について、発時の本没の婦長ひあつた、久松、前田の西婦長に疑問の点を記載し調査方を依頼中。

第三、右の外唯今県に提出する死亡者名簿（死亡者名、当時、現住所、本籍等